

## 教育部長マニフェスト（評価及び検証）

重点課題 ①

子どもたちの確かな学力の確立

難易度



自己評価



（評価検証）平成28年12月31日

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

### 遂行目標

昨年実施しました「学校教育に関するアンケート調査（満足度調査）」では、「基礎学力を付け、学習意欲を高める取組み」に関しては、満足度が高いとは言えない結果でありました。また、今年1月の「柏原市市民意識調査」でも、「教育指導」に関して重要度に比べ満足度が低いとの結果から、学力向上を大きな教育課題として位置づけ、平成28年度の学校教育に係る基本目標を「柏原の教育力の向上に向けて一人ひとりに確かな学力を育むために」と定め、その達成に向けた取組みを進めます。

○ 教員の授業力や児童・生徒の学習意欲の向上を目指します。

・全小・中学校が取り組む学力向上策として、今年度から3

### 取組結果・実施状況

児童・生徒の学力の状況につきましては、平成28年度の「全国学力・学習状況調査」（小学6年生と中学3年生対象）や「チャレンジテスト」（中学生のみ対象）の結果は、昨年度より大阪府の平均正答率を上回る教科が増え、上向き傾向にあるものと判断しております。今後ともこれまでの取組みを継続していくことが必要で、平成28年5月に策定しました今年度から3年間の「かしわらっ子はぐくみプラン（学力向上編）」に基づき、各小中学校において取組みを進めています。小学校での放課後学習支援事業（SAS事業等）や中学校での学力向上推進講師等による補習事業も継続実施しています。

また教員の授業力向上に向け、経験年数に応じた研修等を実施し、新たに中学校教科別授業実践発表会をこの3月に実

年間の「かしわらっ子はぐくみプラン（学力向上編）」を策定します。

- ・全小学校で学習習慣の定着と基礎学力向上のため、放課後学習支援事業（SAS 事業など）を充実させます。
- ・教員の経験年数に応じた研修を実施します。
- ・中学校での塾講師（学力向上推進講師）等による補習事業等を実施します。

施します。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

#### アウトプット

- 学力向上への組織体制確立のため「学力向上対策委員会」及び「学力向上推進委員会」を設置し、各小・中学校ごとに実施計画を立て、その取組を進めます。
- 今年度から小学1年生から6年生全員を対象に学力状況などを把握するため「かしわらっ子はぐくみテスト」を実施します。
- 小学校全校で「柏原市スタディアフタースクール事業（SAS）」の指導内容を充実して実施します。
- 民間教育産業の人材（塾講師）や教材、資料の活用を推進します。
  - ・中学校6校で、塾講師（学力向上推進講師）や学力向上推進補助指導員による補習事業を対象学年や科目を各校の実情に応じて実施します。

#### 取組結果・実施状況

学力向上への組織体制確立のため、「学力向上対策委員会」を3回、「学力向上推進委員会」を8回それぞれ開催しました。

新たに市内全児童を対象とする「かしわらっ子はぐくみテスト」を平成29年1月11日に実施しました。今後、児童個々の結果を経年比較しながら、児童に応じた学力向上の取組を進めます。

全ての小学校で、児童の学習支援として大阪教育大学や関西福祉科学大学の学生の協力を得て、「柏原市スタディアフタースクール事業（SAS）」を前期後期合わせて216回（12月末現在）実施し、379人が参加しています。

また中学校においては、学力向上推進講師（塾講師等）や学力向上推進補助指導員による指導を放課後の補習に加え、一部の学校には正規授業にも広げました。その結果、全中学校での実施状況は補習事業を65回、延べ1,080人、授

業を11回、延べ115人が受講しています。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

- 全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの各教科・区分における本市の平均正答率が、大阪府の平均正答率を上回ります。
- 市民意識調査における「教育指導」の集計結果  
満足度 $\geq$ 重要度

### 取組結果・実施状況

全国学力調査の平均正答率は、小学生（6年生）では、昨年度全教科で大阪府平均を下回りましたが、今年度は国語Bで大阪府平均を0.3ポイント上回りました。国語Aは0.7（昨年度府平均との差3.2）ポイント、算数Aは2.2（同2.9）ポイント、算数Bは1.8（同4.2）ポイントそれぞれ大阪府平均を下回りましたが、その差は昨年度に比べ大きく改善しております。

また中学生（3年生）でも、昨年度全教科で大阪府平均を下回りましたが、今年度は国語Bで大阪府平均を0.7ポイント上回りました。国語Aは0.2（同0.4）ポイント、算数Aは1.5（同3.8）ポイント、算数Bは1.8（同3.2）ポイントそれぞれ府平均を下回りましたがその差は大きく減少しています。

今年度のチャレンジテスト（中学3年生）の結果は、大阪府平均より国語0.8ポイント、理科0.3ポイントそれぞれ上回り、一方、数学0.4ポイント、社会0.2ポイント、英語3.3ポイントそれぞれ大阪府平均を下回りました。

市民意識調査における「教育指導」の集計結果は、満足度が2.95（昨年度3.10）で重要度は4.31（同4.35）となり、満足度と重要度との乖離は続いています。

重点課題 ②

難易度

自己評価

## 教育環境の整備



★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

## 遂行目標

子どもたちが、安全・安心な質の高い空間で学び、生活ができるよう、いじめ問題を含め、学校内外における安全・安心の確保に努めることが必要です。そのため、児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、また保護者や学校支援ボランティア、地域の関係団体の協力を得て、安全確保のための方策を講じます。また、耐震化工事などによる安全な施設環境の構築や学校の適正規模化など教育環境の質的向上を図ります。

- いじめ問題等へは実態把握に努めるとともに徹底した啓発・啓蒙を行い、学校と教育委員会が連携する体制を更に進めます。
- 安全、安心な学校施設の環境整備を引き続き進めます。
- 市立小・中学校の適正規模・適正配置を向けた将来的な基本方針を策定します。
- 柏原中学校区学校施設統合整備事業の今後の取組みを明示します。

## 取組結果・実施状況

いじめへの早期発見等の対応としましては、「柏原市立小中学校生活アンケート」を年2回実施し、いじめ撲滅に向け教育委員会としての新たな取組みを児童・生徒や保護者への周知を図っています。

学校施設の環境整備につきましては、今年度で全小学校での校舎耐震化工事が完了し、中学校の校舎耐震化へは残る1校の工事設計業務を進め、来年度中の耐震工事の完成を予定しております。また、空調設備の設置につきましては、全小・中学校の図書室や音楽室、保健室、支援学級教室等への空調設置が完了し、今後は中学校から普通教室への空調設置を進めます。更に、国分中学校グラウンド拡張のための用地を確保しました。

人口減少や少子化に伴う市立小・中学校の今後のあり方につきましては、「市立小・中学校の適正規模・適正配置基本方針」を9月に策定し、それに従って6中学校区ごとの取組みを進めています。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトプット

- 全児童・生徒を対象にいじめ等の実態把握のため、市で統一した「柏原市立小中学校生活アンケート」を年2回実施します。
- 柏原小学校及び柏原東小学校の校舎の耐震化工事、小・中学校の特別室などの空調設備の設置工事を進めます。
- 市立小・中学校の適正規模・適正配置に向けた考え方や今後の方向性を示した基本方針をこの秋までに策定します。
- 柏原中学校区学校施設統合整備事業について、基本構想、基本計画及び PFI 事業に係る可能性調査の結果を受けての今後の取組みを明示します。
- 堅上小学校及び堅下南小学校へ遠隔地から通学する児童を対象にスクールバスの運行を継続します。
- 「次世代教育を考える会」を継続します。

### 取組結果・実施状況

- 全児童・生徒を対象に「柏原市立小中学校生活アンケート」6月、10月の2回実施しました。
- 柏原小学校及び柏原東小学校の校舎耐震化工事を完了し、また平成29年度中の柏原中学校校舎の耐震化に向け、工事設計業務を実施しました。
- 学校施設への空調設備の設置につきましては、小学校3校及び中学校3校の図書室や音楽室等への設置を完了しました。普通教室への空調設置につきましては、中学校から導入に向けた計画を策定し、来年度中の1中学校への空調設置に向け進めています。
- 今後の学校のあり方につきましては、市立小・中学校の適正規模・適正配置基本方針を9月に策定しました。それを受け、今後は柏原中学校区での施設一体型小中一貫教育校の設置や国分中学校区内の小規模化する小学校への対応を行っていきます。
- 小規模特認校である堅上小学校の校区外から通学する児童の登下校時に、また堅下南小学校へ通学する1～3年生の登校時にそれぞれスクールバスの運行を継続しました。
- 「次世代教育を考える会」を3回開催し、最終的にはその成果をまとめた冊子「(仮称) これからの学校」を全児童・生徒の家庭へ配布します。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

#### アウトカム

- 学校生活アンケートにおける「学校生活が楽しい」児童・生徒を増やします。
- 市民意識調査における「教育環境」の集計結果  
満足度 $\geq$ 重要度

#### 取組結果・実施状況

今年度の第1回学校生活アンケートの結果から、「学校生活が楽しい」と答えた児童・生徒の割合は、小学6年生と中学1年生において増加しました。また、いじめ関係の質問項目では、児童においては減少し、生徒では増加傾向にあります。なお、いじめの認知度が増えているのは、教職員の意識変革がなされ、児童・生徒への目が行き届いていることの表れだと認識しています。

市民意識調査における「教育環境」の集計結果は、満足度が3.09（昨年度は3.32）で重要度は4.42（同4.47）となり、その乖離は広がっています。

## 教育機会の均等と確保

A

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

## 遂行目標

教育の機会は、全ての子どもたちに保障することが求められています。支援を必要とする子どもには、障がいの状況に応じて、一人ひとりのニーズに対する適切な教育を進めます。また、経済的な理由によって就学が難しい子どもの保護者に対して、必要な援助を行い、適切かつ迅速な就学支援に努めます。

○ 「いじめ」、「不登校」及び「支援教育」について、適切な支援や配慮が可能となるよう臨床心理士であるスクールカウンセラー（SC）や子ども支援教育専門相談員による相談体制を継続します。

○ 不登校児童・生徒に対し、適応指導教室においてカウンセリングや学習支援などを行います。

○ 障がいのある子どもたちの移動、日常生活の介助及び学習面を支援します。

○ 就学援助費や支援教育就学奨励費をそれぞれの基準に基づき、速やかに支援を実施します。

## 取組結果・実施状況

教育はその機会の平等性を担保することが求められ、支援を必要とする子どもには、それぞれの障がいの状況に応じた適切な教育が必要であります。また、経済的な理由によって就学が難しい子どもの保護者に対して、必要な援助を行い、適切かつ迅速な就学支援に努めています。

「いじめ」、「不登校」及び「支援教育」への対応につきましては、臨床心理士であるスクールカウンセラー（SC）や子ども支援教育専門相談員、スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、児童・生徒及び保護者等へ支援しています。

障がいのある子どもたちの移動や日常生活の介助、学習面を支援として、介助員の確保に努め、適正に配置しています。

就学援助費や支援教育就学奨励費をそれぞれ適正な基準に基づき、速やかに支援を実施しています。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

#### アウトプット

- 小学校のスクールカウンセラー（SC）及び子ども支援教育相談員による相談を教育研究所だけでなく小学校への巡回相談を合わせて384回実施します。
- 小学校・中学校へ必要な介助員を適正に配置します。
- 就学援助費のうち、昨年度までの中学1年生の「新入学学用品費」を今年度から小学6年生に「中学校入学準備金」として支給します。

#### 取組結果・実施状況

小学校のスクールカウンセラー（SC）や子ども支援教育相談員による相談（巡回相談を含む）を284回（12月末現在）実施しました。

幼小中学校の介助員につきましては、幼稚園5人（12月末）、小学校32人（同）及び中学校14人（同）を適正に配置しています。

就学援助費のうち新たに小学6年生へは「中学校入学準備金」を3月中に支給します。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

#### アウトカム

- 児童や保護者などが抱える不安や悩みの解消に努めます。
- 障がいをお持ちの児童・生徒の保護者の負担を軽減します。
- 就学援助などが必要な保護者へ支援を実施します。

#### 取組結果・実施状況

小学校のスクールカウンセラー（SC）や子ども支援教育相談員が児童や保護者等から受けた相談件数は、延べ2,252件（12月末現在）で、その内訳は保護者が704件（同）、教職員が590件（同）、児童が387件（同）となっています。

就学援助費につきましては、認定基準の適正化に努めた結果、児童504人、生徒386人合わせて890人（12月末現在）へ支給しています。また、支援教育就学奨励費を児童48人（同）、生徒21人（同）へ支給しています。



## 青少年の健全育成



★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

## 遂行目標

「地域の子は、地域で育てる」の意識を高めて、青少年がたくましく健やかに成長することを目標に、学校、家庭及び地域社会が一体となり青少年の育成を進めます。

- 子どもの安全の確保や青少年健全育成活動の推進します。
- 青少年講座の充実します。
  - ・ 青少年講座を市内の大学と連携して開催します。

## 取組結果・実施状況

青少年の健全育成で重要なことは、「地域の子は、地域で育てる」の意識を高め、学校、家庭及び地域社会が一体となって関係事業を進めることにあります。

- 子どもたちが生活技術の習得や生きる力を伸ばすため、今年度も「通学合宿」を開催しました。
- 「放課後子ども教室」を全小学校で開催し、また「青少年講座」等も引き続き開催しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

## アウトプット

- 「放課後子ども教室」を市内全小学校 10 校及び 1 団体で実施し、その参加者数を昨年度実績以上とします。
- 青少年講座を主催し、その受講者数を昨年度実績以上と

## 取組結果・実施状況

地域の方々からの協力を得て実施する「通学合宿」は、9月11日から13日まで堅下小及び堅下北小の4年生等21人が参加しました。

します。

○ 社会教育団体や青少年育成団体等が行う事業を支援します。

「放課後子ども教室」は、市内全小学校 10 校及び 1 団体において、全 129 回（12 月末現在）開催し、参加者数は 3,426 人（同）となっています。

青少年講座は、「青少年つり入門」や「昆虫観察」、「歴史」等 7 講座を開催し、182 人の受講者がありました。また、スマイルランドでの自主事業として、「絵画教室」や「クリスマスリース作り教室」を開催し、41 人の参加がありました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

#### アウトカム

子どもたちが地域とのつながりの中で健全に育つまちの実現を目指します。

○ 市民意識調査における「青少年の健全育成」の集計結果  
満足度 ≥ 重要度

#### 取組結果・実施状況

市民意識調査における「青少年の健全育成」の集計結果は、満足度が 3.25（昨年度 3.41）で重要度が 4.37（4.47）となり、その乖離は続いています。

## スポーツの振興

B

概ね達成

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

## 遂行目標

市民の健康への関心が高まる中、スポーツによる健康増進を図るため、スポーツが健康増進や体力向上にもたらす効果など、スポーツの重要性に関する情報を市民へ提供するとともに、誰もが身近な地域で気軽にスポーツに親しむことができる機会づくりや、新たなスポーツの普及を目指します。また、新たなスポーツ施設の整備に向けた事業を進めます。

○ 市民のスポーツへの参加を推進します。

・第4回スポーツフェスティバル in 柏原や2017柏原シティキャンパスマラソン、柏原市チャレンジデー2016を開催します。

・関係部局と連携し、サイクルスポーツの普及に向け、取り組みます。

○ スポーツ環境を充実します。

・法善寺地区内に（仮）恩智川多目的遊水地市民スポーツ広場を平成30年度開場に向け、設置を進めます。

## 取組結果・実施状況

スポーツを通じて、市民の健康増進を図る目的で、柏原市チャレンジデー2016を平成28年5月25日に、第4回スポーツフェスティバル in 柏原を平成28年11月5日にそれぞれ実施しました。なお、2017柏原シティキャンパスマラソンについては、一般部門の出場者から参加料を求め、平成29年2月19日に開催します。また、新たな市民スポーツ施設として（仮）恩智川多目的遊水地市民スポーツ広場を今後とも設置に向け進めています。

リビエールホール前に伝言板（リビボード）を設置し、サイクリング愛好者の拠点となるよう努めています。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトプット

- 第4回スポーツフェスティバル in 柏原への参加者を昨年度実績以上とします。
  - 2017柏原シティキャンパスマラソンへの参加者を昨年度実績以上とします。
  - 柏原市チャレンジデー2016への市民参加率を昨年度実績以上とします。
  - (仮) 恩智川多目的遊水地市民スポーツ広場での使用可能な競技種目を決定し、測量・設計を行います。合わせて、市民対象に利用に関するアンケート調査を実施します。
  - 運動広場や体育施設の柔軟な管理・運営を図ります。
  - 市立体育館での多彩なスポーツ教室を開催し、その参加者を昨年度実績以上とします。
- 学校体育施設の利用者を昨年度実績以上とします。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

- 市民が気軽にスポーツを楽しむ環境づくりに努めます。
- 市民意識調査における「スポーツ振興」の集計結果  
満足度 ≥ 重要度

### 取組結果・実施状況

第4回スポーツフェスティバル in 柏原への参加者は、6,491人で昨年度実績(7,234人)を超えることはできませんでした。

柏原市チャレンジデー2016への市民参加率は72.8%で昨年度実績68.2%を上回りました。

(仮) 恩智川多目的遊水地市民スポーツ広場の設置に向けては、予定地の測量を完了し、市民へ利用に関するアンケート調査を平成28年5月27日から6月16日まで実施しました。

市立体育館では、スポーツ教室を929回(12月末現在)開催し、その参加者数は20,487人(同)でした。

学校体育施設の利用者数は206,984人(同)でした。

### 取組結果・実施状況

市民意識調査における「スポーツ振興」の集計結果は、満足度が3.14(昨年度が3.35)で、重要度が3.83(同3.86)となり、その乖離は小さく維持しています。

## 生涯学習の充実

B

概ね達成

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

## 遂行目標

全ての世代のライフステージや市民ニーズに応じた多様な学習の内容や環境を整えるとともに、学習により習得した知識や技術を地域に還元できる地域社会を目指し、ライフステージに応じた多様な学習機会を提供します。

- 社会教育施設を使用した生涯学習を推進します。
  - ・ 指定管理者による自然体験学習施設（スマイルランド）と竜田古道の里山公園の一体的な管理・運営を実施します。
- 公民館の活用を進めます。
- 図書館の活用を進めます。
- 文化財の保存、整備及び活用を進めます。
  - ・ 史跡鳥坂寺跡地公有化事業を進めます。

## 取組結果・実施状況

ライフステージに応じた多様な学習機会を確保するため、生涯学習に関するイベント、講座及び教室などの開催情報を記載した「かしわら生涯学習情報ニュース」を半年ごとに2回発行しました。

昨年度オープンした自然体験学習施設（スマイルランド）は、竜田古道の里山公園との一体的な利用の促進を図るため、指定管理者による管理・運営を開始しました。

公民館では、市民ニーズに応じて25講座（春・秋期講座9講座、教養・基礎講座等16）を、また市民文化祭を10月8日から30日までの土日祝日の9日間開催しました。

図書館では、市民の利用促進に向け SNS を活用して図書館のイベント情報などを積極的に行っています。また主催行事を72回、共済行事を33回開催し、今年度は国分図書館で新たな取組みとして、「としょかんマルシェおはなしのもり」を10月30日に開催

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトプット

- 自然体験学習施設を活用した事業を実施します。
  - ・自然体験学習施設 利用者数：18,000人以上
  - ・竜田古道の里山公園 来園者数：昨年度実績以上
- 多様なニーズに応じた公民館講座を開催します。
  - ・公民館講座 受講者数：450人以上
  - ・市民文化祭 参加者数：15,000人以上
- 図書館利用者数等と拡大します。
  - ・図書貸出冊数：450,000冊以上
  - ・貸出人数：125,000人以上
- 幼児向けの「お話会」や「紙芝居等」を始め、多様なニーズに対応した図書館行事を開催します。
  - ・「お話会」及び「紙芝居等」の参加者数：1,800人以上
- 市民文化会館（リビエールホール）を利用した市民参加型イベントを開催します。
  - ・リビエールホールでの市民参加型イベントへの参加者数：7,000人以上
- 歴史資料館の企画展や史跡高井田横穴の特別公開を実施します。

しました。

歴史資料館では、企画展3回、文化講演会2回、市民歴史大学3回文化財講座や体験教室2回を開催しました。

### 取組結果・実施状況

- 自然体験学習施設（スマイルランド）につきましては、指定管理者による管理・運営（公園を含む）を開始しました。平成28年12月末現在（）内は昨年度実績（9か月間）
- ・自然体験学習施設利用者数：16,642人（6,503人）
  - ・竜田古道の里山公園来園者数：8,854人（6,681人）
- 公民館の各講座等開催状況
- ・講座受講者数：422人
  - ・市民文化祭参加者数：13,898人
- 図書館の利用者数と貸出冊数
- ・貸出人数：90,308人
  - ・図書貸出冊数：324,704冊
  - ・「お話会」及び「紙芝居等」の参加者数：3,590人
  - ・としょかんマルシェおはなしのもり来場者：550人でうち大人291人、子ども269人となりました。
- 市民文化会館（リビエールホール）の利用人数：14,204人（12,857人）

- ・歴史資料館来場者：18,000人以上
  - ・史跡高井田横穴特別公開参加者：300人以上
- 国の史跡に指定された鳥坂寺跡地民有地のうち約2,064㎡を公有地化します。

- 歴史資料館等の利用状況
- ・歴史資料館来場者：14,967人
  - ・史跡高井田横穴特別公開参加者：197人
  - ・「柏陽庵」利用者数：1,346人
- 国の史跡に指定された鳥坂寺跡地民有地のうち約2,064㎡を公有地化しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

#### アウトカム

- 誰もが気軽に学習ができる環境づくりに努めます。
- 市民意識調査における「生涯学習」の集計結果  
満足度≥重要度

#### 取組結果・実施状況

市民意識調査における「生涯学習」の集計結果は、満足度が3.10（昨年度は3.25）で重要度は4.02（同4.08）となり、その乖離が小さいことから市民の満足度を維持している状態にあります。

(評価日) 平成29年2月6日

## 市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

## 市長のコメント

- ・ 学力向上に関しては、教職員がモチベーションを持ち続けられるよう配慮すること。
- ・ 教育環境の整備は計画を前倒しして、重点的に進めること。
- ・ こどもの貧困、いじめへの取組を深化させていくこと。
- ・ 恩智川多目的遊水地の稼働に向けた準備をすすめること。